

## FD 関連研修会 参加報告書

主 催	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室
企画名称・テーマ	「ファカルティー・ディベロッパー養成研修」
開催日＜会場＞	2011年11月11日（金）～13日（日） キャンパス・イノベーションセンター東京
参加者所属	教学部 教育開発課

### 参加報告

キャンパス・イノベーションセンター東京で開催された、「ファカルティー・ディベロッパー養成研修」に参加させていただきました。

ファカルティー・ディベロッパー養成研修は全国でFDに3年間以上携わる教職員を対象としており、今回3日間のプログラムで開催された。

研修の目標は、下記5点となっており、この目標到達に向けた研修プログラムが用意されていた。

- ①自らのFD活動を振り返り、強みと課題を抽出することができる。
- ②他者からの助言を踏まえて、自らのFD活動の課題の解決策を見出すことができる。
- ③ミクロ・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。
- ④ミドル・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。
- ⑤マクロ・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。

#### 1日目（上記目標①②③）

初日は、「FD活動の振り返り」をテーマに参加者がいままで取り組んできたFD活動をミクロレベル・ミドルレベル・マクロレベルごとに分析シートにまとめ、4名のグループワークの中で発表、質疑応答をおこなった。

私のグループは、札幌大学、芝浦工業大学、サイバー大学の4名であったが、本学が特にFDが遅れているという感はなく、他大学に比して職員が積極的にFDに参加しているように感じた。

#### 2日目（上記目標③④⑤）

二日目の午前中は、小林直人氏（愛媛大学教育企画室 室長）による「3つのポリシー策定とカリキュラム評価」を受講した。

まず、3つのポリシーの中でも教育の質保証を考える際、ディプロマ・ポリシー（以下：DP）の内容が重要であること。また、DP策定の際には、「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心」「態度」「技能・表現」の5領域に分け設定する事、その表現も「達成が挙証できるよう具体的に記す。」「学生を主語にして〇〇ができる。」といった具体

的なものでなければならないと指摘された。

そして、DP とカリキュラムとの整合性を検証する際に有効的に活用できるツールとして、カリキュラムチェックシート（以下：CCL）が紹介された。

CCL は横軸に DP、縦軸に開設科目を列挙し、それぞれの科目がどの DP 達成に關与しているかを体系的に検証できるもので、非常に簡便でありながらも有効なものであった。

この CCL を使用する効果は、まず、学部学科のカリキュラムと DP の整合性を体系的に検証できること、科目の到達目標が一定の DP に偏っていないかバランスを見る事ができる、などが挙げられる。

また、教員個人が担当科目についてシートを活用すると、担当科目と DP の関連性が明確になり DP を意識した授業設計・シラバス設計に効果的である。

このような、簡単なツールを使う事で DP とカリキュラムの整合性を確認する事ができ今後のカリキュラム再編の際にも役立つ事から、是非、本学でもこの取り組みを拡げたいと感じた。

### 三日目（上記目標②⑤）

三日目は、二日目の振り返りと「学習する組織づくりに向けて」のワークショップを受講した。

マクロレベルの FD、特に FD 推進に向けた組織体制を整備する際、教職員それぞれが学ぶ姿勢を持つこと、また、組織のトップと現場は時間を見つけて常に情報交換することが重要であると指摘されていた。

この研修を通して感じたことは、3つのポリシーの効果や達成度を曖昧に測るのではなく何らかのツールを使って挙証していく事が重要な事、また、それを達成するには設計時から挙証可能な設計にしておかなくてはならないこと、そして FD はその効果を検証し実質化していく事が重要であると感じた。

以上